



# 霊峰の袂。 舞い降りる天女と 鐵人。

# 三



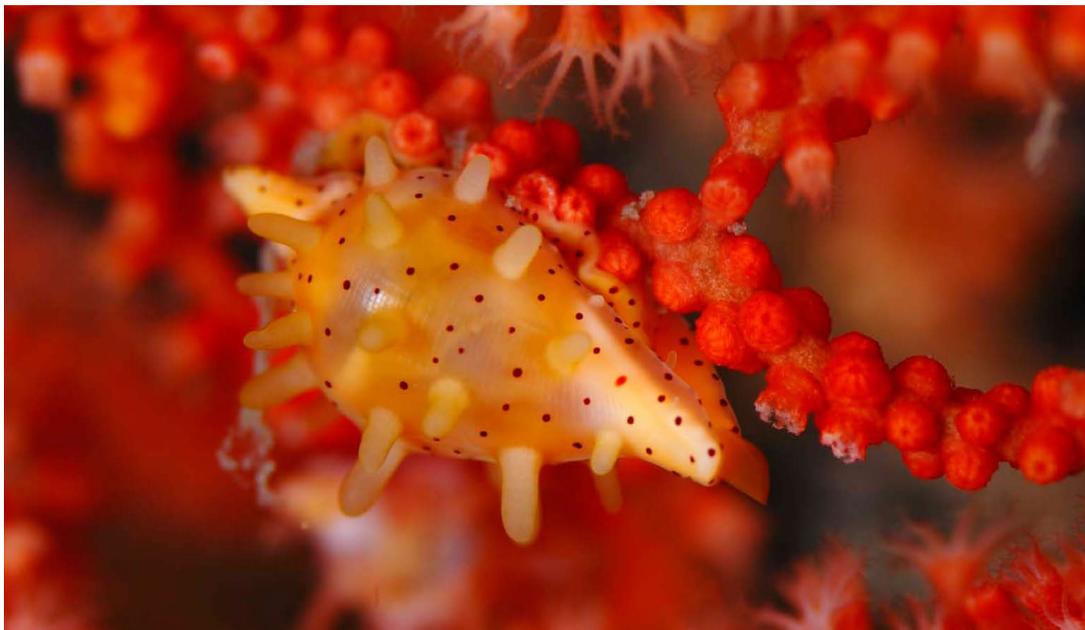
# 保

言わずと知れた日本最高峰「富士山」に見守られる静岡県三保半島。メインダイビングポイントである真崎海岸に立つと、力強く美しい富士の姿にしばし圧倒される。その昔、この地には天女が舞い降りたとされる。天女が愛でたこの海では、いったいどんな出会いが待っているのか？

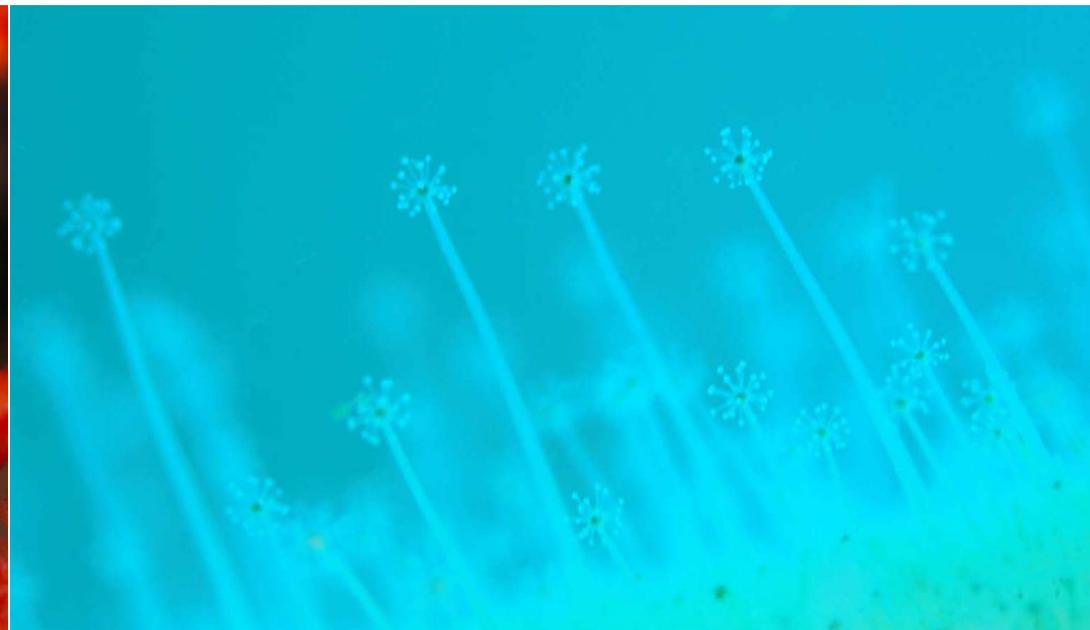
三保の伝道師と共に、巨大な富士に挑むように広がる真崎海岸へエントリーした。

富士山に見守られる真崎海岸の風景はまさに壮観

撮影・文=古見きゆう  
取材協力=ダイバースプロ・アイアン  
Design = maya



真崎海岸のソフトコーラルには数々の美しい貝類が付着する



大きなウミサカ類の根元に隠れた可愛らしさを発見

# 紡ぎだされる彩色

*Full of Colors*



ぐっちゃんりと鮮やかなソフトコーラルが群生する



大きいものから小さいものまでサクラダイは勢ぞろい

三 霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。 保

Web-lue 2010. Autumn



シロアザミヤギに寄生するベニキヌツツミ。じつにフォトジェニックだ



フトヤギに寄生するホリキヌツツミ。完璧な擬態を見せてくれた



ヤギ類をひとつひとつ丹念にチェックするガイド鉄さん

**何**を隠そう三保の海に潜るのは今回が初めてだ。ダイビングを始めた当初から伊豆半島へはよく通ったものなのだが、その先の三保半島へはなかなかタイミングの折り合いがつかずにいた。いろんなダイバーや親交のあるガイドの話なども聞いていたので、三保の海への興味だけが膨らんでいくばかりだった。

僕が真崎海岸に潜るまで抱いていたイメージは、ただただ一面に広がる砂泥底。これはアイアンのガイド鉄さんや、これまでに三保を潜り込んでいるダイバーからも聞いていた話で、間違いようのない事実。ただ僕が実際に潜り、そこに見た景色は、その印象を打ち壊すようなカラフルな海が広がっていた。

**エ**ントリー地点から玉石が続き、水深3～4m付近から急斜面が一気に18mほどまで落ち込む。ここから先は前述の通り、きめの細かい泥場が広がるのだが、局地的に「これでもか!」といわんばかりにエダ

アザミヤフトヤギの類いがワサワサと茂る。あらゆる色と形がごちゃ混ぜになり、ひとつのオブジェのような輝きをみせる。周辺環境とのギャップがこれらの色を更に引き立てている、のかもしれない。

「うわ～。これ、すごいじゃないですか～!」と目とリアクションで合図を送っていると、マスクの下でニカッと笑う鉄さんが手招きをしてくれる。ここから三保の鐵人の本領だ。鉄さんがライトで照らす先には、美しくユニークな被写体が浮かび上がってくる。特に印象的だったのが、ウミウサギガイなどのカラフルなヤギに寄生する貝類だ。大きさを数センチほどの小さな小さな貝類は、それだけをクローズアップしても美しいヤギ類に寄生しているため、撮影者としてもこれはタマライ被写体となる。次々と発見される貝たちの撮影に、しばし没頭する。今度はこっちの角度から……。この背景いいよね!と様々な画作りが可能だ。



トラ柄がひととき目立つ美しいトラフケボリ



水底に刺さった木の上でニジンボのキャブルがお話中でした

# 溢れでる生物に 興奮!

*Power of the Life*

**三** 霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。 **保**

Web-lue 2010. Autumn



こんなに小さなサクラダイの幼魚には初めて出会った。かわいいですよ



少し深場ではサクラダイの鮮やかな色がひときり際立つ



ものすごい勢いでイサキの大量が目の前を駆け抜けていった

「今の時点（2009年12月現在）で、これらの貝類の間は26種類見つけています。だいたいシーズンを通して15種は平均して見ることができますね。それぞれのバリエーションも豊富なので、飽きることはないですよ」という鉄さんの言葉通り、正直言ってこれまで、それほど貝類に魅力を感じたことはなかったのだが、なんだか可愛いオモチャを眺めているようで、コレクションしていくととても楽しい。新しい価値観が僕に芽生えたことは言うまでもない。

そして三保にはあまり群れなどのイメージもなかったのだが、キングヨハナダイやイサキの群れなどが、

途切れることなく僕の周りを取り巻いていることにも驚かされた。特にブリーフィングにも出ては来なかったし、全く考えていなかった出会いだったので、少しのあいだ呆然としてしまった。群れの中には、伊豆半島ではこれまで見たことがなかったアカオビハナダイなども混じるし、小さなサクラダイの幼魚も最高に可愛らしくて、つつい潜水時間が長くなる。

結局ファーストダイブから度肝を抜かれればなしとなった三保での初日。夕方エグジットする時に見た鉄さんの背中が、僕には鉄人を越えた、仙人のようにも見えていた。

## 溢れでる 生物に興奮！

*Power of the Life*

三 霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。 保

Web-lue 2010. Autumn



Information Link  
[http://web.me.com/under\\_w](http://web.me.com/under_w)

← 関連情報HPへ

今まで出会った魚の中でもムサキウミヘビの顔は  
トップクラスのインパクト



*Dance of the Celestial Maiden*

# 泥場の天女たち



イッテンアカタチは巣穴からゆくり出たり入ったりを繰り返す

## 三 保

霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。

Web-lue 2010. Autumn



Information Link  
[http://web.me.com/under\\_w](http://web.me.com/under_w)

◀ 関連情報HPへ



ヒレナガハゼは一見地味な泥地で輝かしいまでの存在感を放っていた



*A Unique Group*  
**超個性派軍団**

はじめて出会ったコウガイメナガガザミ。宇宙人みたいだ



なかなか洗いカラーリングのゲンロクダイ



こちらは洗い髭をたくわえたサビハゼ



ボズコウイカが貝の殻に擬態しながら休憩中

**三** 霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。  
**保**

Web-lue 2010. Autumn



インダタミヤドカリがでっかい貝を背負って、ちょこまかと動き回っていた



こちらもお初にお目にかかったヨコスジシモチ



アイアンのアカデミックな一面。エダザミがブラヌラ幼生を抱えている姿なども紹介してくれる

**翌** 日からは真崎の底力というべき、泥場を重点的に攻めることになった。ここ真崎海岸の海底は着底すると、モワ〜と砂が舞ってしまうほどなので、少々落ち着いて写真を撮ることをお勧めしたい。こう書くと、かなりテクニックが必要なのでは？と思われがちではあるが、ゆっくりじっくり腰を据えて被写体と向き合うことが出来るので、マクロ撮影に没頭できる環境であるとも言える。潜る前に鉄さん一押し生物を聞いてみた。

「**こ**この泥場ではアカタチの仲間を、年間通して4種類見ることができるんです。イッテン、インド、アカタチ、スミツキ、これらは基本的に深海性の魚で、幼魚や比較的若いステージのものが多く見られます。ここで育って徐々に深場へ帰って行くのでしょうか。駿河湾というドン深の環境が目の前だから

こそ、こんなにも見られるのかもしれないね」  
**ア**カタチという魚は本当に不思議な魚だ。リボンのように薄っぺらい身体で、巣穴からフラフ〜と出てきては、またすぐに隠れてしまう。なんとも奥ゆかしくて、ヒラヒラと舞う姿が美しく視線が釘付けになってしまう。天女がかけた羽衣の一部が切れて、アカタチになったとしたら面白いなあ。

ぼ〜とそんなことを思っていた矢先に、アカタチの巣穴のすぐ横に、これまたとんでもない形相をした魚を発見する。ムラサキウミヘビである。これにはとてつもないインパクトを受けた。優雅なアカタチと比べると、はっきり言って顔が怖い……。しかし、このイカツイ顔にまた趣を感じる。全てを達観した賢者のような雰囲気でもある。天女から賢者、仙人と揃う三保の海はやはり凄いところなんだなあ。

しかし、今回は本当に初めて見る生物にたくさん出会うことができた。ライトを当てるとド派手な模様のヒレナガハゼ、どう見ても宇宙人のようなメナガザミなどの面白不思議生物に加え、ゲンロクダイの幼魚やヨコスジシモチなどの一見地味ながら、キラリとその存在が光る魚もワンサカいるのである。アカタチやムラサキウミヘビのインパクトに飲み込まれがちではあるが、三保の海は他の海では感じられないようなユニークな生物・被写体に溢れている。  
**こ**れらはこの独特な環境が作り出してしることは言うまでもないのだが、それらを丹念に細やかにリサーチし

ているガイドの情熱も本当に素晴らしい。カユいところまで手が届くというか、海の中のことは全て委ねてしまいたいと思える安心感。それを既に感じてダイバーも少なくないだろう。

**天**女はこの海のこのまで知っていたのかな？そんなことを考えるだけで少しワクワクする。天女が残していったものは羽衣だけではない。こんなにも豊かで面白い生き物たちを残してくれたのだから。

## 超個性派軍団 *A Unique Group*

**三** 霊峰の袂。舞い降りる天女と鐵人。 **保**

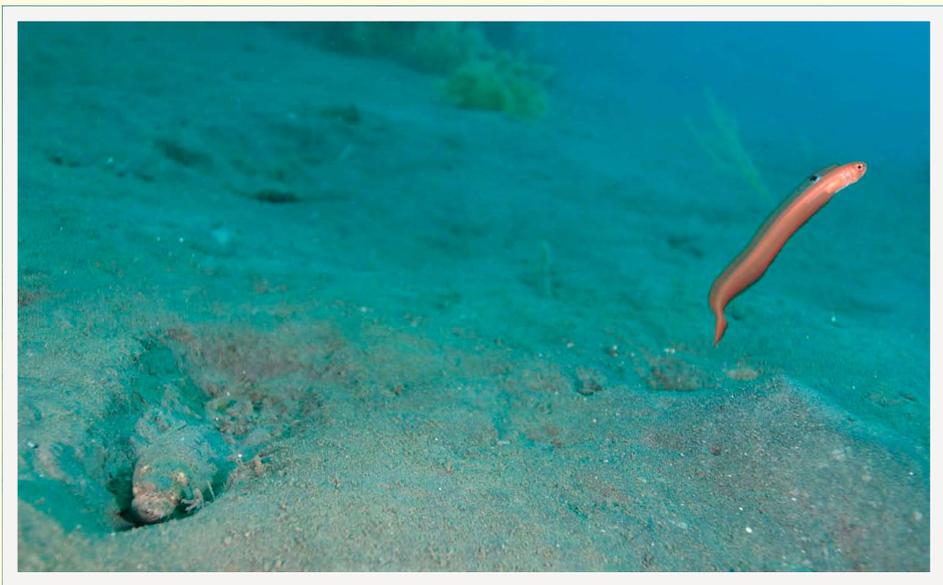
Web-lue 2010. Autumn



Information Link  
[http://web.me.com/under\\_w](http://web.me.com/under_w)

← 関連情報HPへ

# さきゅう的 三保の 愉しみかた



三保を代表する魚のツーショットを激写!

**今** 回念願がなって三保の海に潜ることができた。率直な感想から言わせてもらおうと、潜る前に抱いていた印象と、実際に見たの海の様相は大きく異なっていたと言ってもいいと思う。あまりにもシルト、すなわち泥場の先入観が強すぎたもので、正直今回の取材のファーストダイブは腰が抜けてしまうほどにビックリしてしまった。真っ白で美しいシロアザミヤギを筆頭に、紫やオレンジ、ピンクのヤギ類の群生がこぼか美しく、しばらくのあいだ、その場から動けなくなってしまったことは言うまでもない。

ただそれだけでも十分にキレイなヤギ類には、写真家心をそそるウミウサギガイの仲間がたくさんついているし、コウライトラギスやアオサハギなどの可愛い被写体も、その周辺には多いので彼らを絡めた絵作りも楽しい。その場から動けないでいる僕の気持ちを察してか、ガイドの鉄さんも僕好みの被写体をアレヤこれヤと紹介してくれるし、その中でも、ソフトコーラルのプラヌラなど、アカデミックな生態を教えてくれるので、ちょっとマニアな僕はウハウハしながら撮影に没頭した。個人的にはこのソフトコーラルの界限で、ぜひ1ダイブは費やしてもらって、じっくり写真を撮ってもらいたい。

**真** 崎海岸の醍醐味でもある泥場では、イッテンアカタチとも出会うことができたのだが、個人的に一番インパクトが強かったのはムラサキウミヘビ。ウミヘビとはいうものの立派な魚の仲間ではあるのだが、どこからどう見ても魚らしくないその出で立ち……。ホラー映画に出てきそうな強面ではあるものの、どこか愛嬌も残しているというなかなかニクイ奴。しかしこのムラサキ

- 01/ 美しいソフトコーラルを背景にすると、どんな魚でもフォトジェニックに
- 02/ ふわっと柔らかいウミトサカに包まれるアオサハギの幼魚
- 03/ コダマウサギ、キヌツツミなど数々の貝類をコレクションしよう

01



02



03



05

- 04/ 三保の松原「羽衣の松」へと向かう情緒あふれる一本道
- 05/ 鐘庵のサクラエビのかき揚げそばは絶品! おかわり必至!!



04

ウミヘビは、伊豆半島もや紀伊半島も含めて、その他の海域では出会ったことがないので、勝手に三保を代表する魚に任命してあげることにした。おめでとうございます。

三保の海は本当にユニークというか独特な雰囲気。海がポンポンと漂ってくる。何気なくいるヒレナガハゼなども他の海では、アイドル的な存在になり得るだろうし、サクラダイの幼魚なんかもあれだけの数がまわっているところに出会ったのは、初めてでその可愛らしさに胸がキュンとなってしまったほどだ。パッと見は決して派手な海ではないかもしれないが、じっくり向き合うことでその深い味わいを噛み締めることができる海だ。

そして忘れてはならないのが、ガイドの鉄さんの存在。誰よりも三保の海に誇りを持っていて、昼夜を問わず常にリサーチや撮影を欠かさない、まさに三保の伝道師。ゲストに最高の三保の海を紹介するという、その情熱はもの凄いのだ。海洋系の大学で授業を受け持つというほど博識でありながら、普段はいつもにこやかに優しいお兄さんの存在。この鉄さんの人柄にすっかりはまってしまっているダイバーも多いことだろう。鉄さんこれからも素晴らしい三保の海を見せてくださいね!

三 霊峰の袂。 舞い降りる天女と鐵人。 保

Web-lue 2010. Autumn

Information Link  
http://web.me.com/under\_w

← 関連情報HPへ

# 鮎、生命の輝き

*Sparkle of the Life*



産卵を繰り返す興津川のアユたち。無数の生命がそこで躍動する

## 三 保

霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。

Web-lue 2010. Autumn

Information Link  
[http://web.me.com/under\\_w](http://web.me.com/under_w)

← 関連情報HPへ



一匹のメスを囲むようにたくさんのオスが集まりだす



どの個体も自らの子孫を残そうと必死に群がる



目の粗い砂を巻き上げるほど勢いよく掘り卵を産み付ける

**今** 回の取材中、夕方になると毎日のように鉄さんに連れられ、車で30分ほど移動した興津川へ向かった。この時期から12月の中旬までをピークに、大量の鮎が遡上し一斉に産卵を繰り返すのだという。太公望たちが静かに糸を垂れるのを横目に、海の水よりも少し冷たい水に恐る恐る顔をつける。水深50、60cmほどのところに体長20cmほどのアユたちが黒い塊となって、流れに逆らい泳ぎ続けている。

**鉄** さんに導かれ産卵の様子を撮影するべくカメラを構える。婚姻時期のアユたちは体色に赤味が強い気がする。常にまとまって動いている訳ではなく、産卵をする瞬間に、ぎゅっと数匹が集まり、僕らにも音が聞こえるほど勢いよく水底を掘り上げ、一匹のメスを複数のオスが押え込むように産卵を繰り返す。

あれほど勢いよく小石を掘るにはどれだけの力が必要なのか？ まさにこの瞬間に生命を燃やすアユの姿は美し

く、そして儂い。産卵を終え、すでに水底に横たわっているものも少なくない。それでも彼らは産卵を止めようとはしない。もうすぐ興津川では今年もこの生と死の一大ドラマがはじまる。

一人でも多くのダイバーがこの瞬間に出会い、何かを感じとってもらえたらと思う。



鉄さんは長年この川でアユの産卵を観察し続けている

## A River Full of Life 興津川に溢れるいのち

### Shop Information ダイバーズ・プロ アイアン

創業30年を超える老舗ダイビングサービス。巨大な富士を望む真崎海岸をホームグラウンドに、常に新しい驚きや発見を提供してくれる。これまでに数千人を超える講習実績をもち、多くのダイバーから厚い支持を受け、近年ではリブザーを使用したダイビングや、ナイトロックを積極的に使用するなど、テクニカルダイビングにも対応してくれる。

ガイド会に所属する三保の顔ともいえる存在である鉄さんをはじめ、生物調査、工事、撮影と、潜水とあらばなんでもこなしてしまう熟練のスタッフが揃う。

〒424-0902  
静岡県清水区折戸2-12-18  
Tel.054-334-0988 Fax.054-334-5524

### 鉄さんが語る「三保の魅力」

基本的に公的な「管理」を受けているダイビングポイントとは違い、ユーティリティ面での優位性はありません。また、他のマリンスポーツとの共存をしなければならないので、お互いに譲り合いの精神がなければ、この場を共有することはできません。以上の事を踏まえて、このエリアを利用するのならば、知的向上心は高次元で満足を得て、自分が生まれてきた、あるいはダイビングを始めた理由の一端を知ることになるでしょう。どのポイントでも言える事ですが、求めれば求めるほど、達成感も高くなるものの、達成率は下がります。三保におけるハイリスクローリターンはツボにハマると、まさにドロ沼に陥ったように抜け出すことができなくなります。それほどまでに、海洋生物の神に愛された「三保」を知らずして、ダイビングを語る事なかれ！ 三保は、視界不良、泥地、そして駿河トラフから湧く昇流による3つの鍵が複雑に絡み合って、奇跡を生み続けているのです。



# 三 保

霊峰の袂。  
舞い降りる天女と鐵人。

Web-lue 2010. Autumn

Information Link  
[http://web.me.com/under\\_w](http://web.me.com/under_w)

← 関連情報HPへ